

# 第1部

## 調査の概要



# 第1部 調査の概要

## 第1 調査の目的

本県における青少年の意識や行動を把握し、青少年に関する総合的な施策の推進のための基礎資料を得るとともに、広く県民に紹介することにより、青少年の健全育成に対する理解と協力を得る。

## 第2 調査の方法

質問紙による無記名集団調査

## 第3 調査の対象

県内の小学校6年生438人（男子218人、女子220人）  
〃 中学校2年生418人（男子200人、女子218人）  
〃 高等学校2年生399人（男子174人、女子225人）  
計1,255人（男子592人、女子663人）

### 1. 小学校（15校）

青森市立浦町小学校、今別町立今別小学校、蓬田村立蓬田小学校  
弘前市立朝暘小学校、平川市立猿賀小学校、藤崎町立藤崎中央小学校  
五所川原市立中央小学校、板柳町立板柳南小学校  
十和田市立南小学校、東北町立上北小学校  
むつ市立第一田名部小学校、むつ市立苦生小学校  
八戸市立白鷗小学校、三戸町立三戸小学校、新郷村立戸来小学校

### 2. 中学校（15校）

青森市立西中学校、今別町立今別中学校、蓬田村立蓬田中学校  
弘前市立船沢中学校、黒石市立東英中学校、西目屋村立西目屋中学校  
五所川原市立五所川原第三中学校、鶴田町立鶴田中学校  
十和田市立三本木中学校、七戸町立七戸中学校  
むつ市立田名部中学校、むつ市立むつ中学校  
八戸市立湊中学校、階上町立道仏中学校、南部町立杉沢中学校

### 3. 高等学校（12校）

県立青森高等学校、県立青森戸山高等学校、県立弘前南高等学校  
県立黒石高等学校、県立木造高等学校、県立中里高等学校  
県立三本木高等学校、県立百石高等学校、県立田名部高等学校・大畑校舎  
県立むつ工業高等学校、県立八戸西高等学校、県立田子高等学校

## 第4 調査の実施期間

平成22年10月から平成22年11月

## 第5 調査項目

### 1. 地域のこと

青森県への評価、住んでいる地域への評価、地域の大人へのあいさつ、地域の大人からのあいさつ

### 2. 学校のこと

学校生活への満足度、学校生活が楽しい理由、学校生活が楽しくない理由

### 3. 家族・家庭のこと

同居家族、兄弟・姉妹の数、「家庭の日」の周知状況、家族がいる家への評価、家族との約束ごと、父親との会話の頻度、母親との会話の頻度、家族や家庭に大切なこと、周囲の大人について、周囲の大人に望むこと

### 4. 自分のこと

自己への評価、他人への思いやり、悩みごと、悩みごとの相談相手、本当に困ったときの相談相手、放課後の過ごし方、休日の過ごし方

### 5. メディア・コミュニケーションのこと

友だちとのコミュニケーション方法、携帯電話の所有状況、自由に使えるパソコンの所有状況、情報サイトへのアクセス状況、情報サイトの利用目的、年齢が制限されているサイトへのアクセス状況、「学校裏サイト」へのアクセス状況、フィルタリング機能の認知状況、フィルタリング機能の利用状況、インターネット利用時のマナーやエチケット

### 6. 生活規範に対する意識

深夜外出の状況、古物換金の状況と理由、刃物の携帯状況と理由、刃物の使用頻度、生活規範に対する意識

### 7. 社会変化に対する意識

社会変化に対する意識

## 第6 時系列比較について

この調査報告書では、下記（3種類）の調査結果との比較分析を行なっている。これらの調査は本調査と同様に、本県における青少年の意識や行動を把握し、青少年に関する総合的な施策の推進のための基礎資料を得ることを目的として、平成10年度、18年度及び20年度に実施したものである。

それらの結果と照合して、共通質問を行った部分について比較を試みた。本報告書への記載にあたっては、次のように表記している。

### ●【時系列比較（平成10年度調査比較）】

平成10年度「青少年の意識に関する調査結果報告書－青少年の生活実態と意識－」を用いた時系列比較分析

### ●【時系列比較（平成18年度調査比較）】

平成18年度「青少年の意識に関する調査結果報告書」を用いた時系列比較分析

### ●【時系列比較（平成20年度調査比較）】

平成20年度「青少年の意識に関する調査結果報告書」を用いた時系列比較分析

それぞれの調査概要は次の通りである。

1. 平成10年度「青少年の意識に関する調査結果報告書－青少年の生活実態と意識－」

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,831人

(3) 調査実施時期

平成10年7月

2. 平成18年度「青少年の意識に関する調査」結果報告書

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,394人

(3) 調査実施期間

平成18年10月～11月

3. 平成20年度「青少年の意識に関する調査」結果報告書

(1) 調査対象者

県内の小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(2) 有効回答者数

児童・生徒1,258人

(3) 調査実施期間

平成20年10月～11月

## 第7 報告書を見る際の留意点

比率はすべてパーセントで表し、小数第2位を四捨五入して算出した。そのため比率の合計が100パーセントにならない場合がある。

## 第8 回答者の属性

性別・学年（回答者数：1,255人）

小学6年生		中学2年生		高校2年生		合 計	
男子	218	男子	200	男子	174	男子	592
女子	220	女子	218	女子	225	女子	663
計	438	計	418	計	399	計	1,255